

アンディ・ウィアー『火星の人』のあらすじ

takaidos

火星の人

『The Martian』 Andy Weir

名作。

<登場人物>

マーク・ワトニー:植物学者、メカニカル・エンジニア。火星に取り残される。

メリッサ・ルイス:有人火星探査船・アレス3の船長。地質学者。

ベス・ヨハンセン:シスオペ。原子炉技術者。

アレックス・フォーゲル:化学者。天体物理学者。

リック・マルティネス:操縦士。

クリス・ベック:ミッション・ドクター。生物学者。ヨハンセンと恋仲に。

ヴェンカト・カプーア:火星ミッションの統括責任者。

テディ・サンダース:NASA長官。

ブルース・ゴ:JPL(ジェット推進研究所)所長。

ミッチ・ヘンダーソン:アレス3のフライト・ディレクター。

アニー・モントローズ:NASA広報統括責任者。

ミンディ・パーク:サットコン(=衛星コントロール)エンジニア。

<あらすじ>

有人火星探査船アレス3のクルー6人は1ヶ月の滞在予定で火星に降り立つが、6日目に予想以上の強風に会い、ハブ(火星基地)を出て、MAV(火星上昇機)に乗って帰還しようとするが、マーク・ワトニーだけアクシデントで置き去りにになってしまう。

地球との通信設備も壊れてしまったマークだったが、ハブ内に土を運んでイモを作って、次の探査船アレス4が来る4年後まで生き残ろうとする。

マークはローバーを改造して1997年に通信が切れたマーズ・パスファインダーを回収。

地球と通信可能になる。通信にはアスキーコードを使用。

しかしハブのシートが何回も出入りしているうちに切れて、マークはエアロックごと外に吹き飛ばされる。

マークは穴の空いたエアロックとガラスの割れた宇宙服を修復し、一度ローバーを基地にしてハブを修復する。

NASAはマーク救出のためにまず食料を積んだロケットを打ち上げるがテスト不十分で歳差運動を起こしてロケットは墜落する。

中国がアレス5に中国人宇宙飛行士を乗せることを条件にエンジンを提供。

NASAは再度食料を火星に送ろうとする。

一方、地球に戻りつつある火星の原子力・イオン人工衛星ヘルメスを使えば、再度火星軌道に早く戻してマークを連れ帰ることも判明する。

アレス3でマークといっしょだった5人は自分たちに乗ったヘルメスを火星軌道に戻すことを決断する。

スカパレリ。

アレス4のMAVが着陸している平原。

3200km離れたその地点までに行くのに、マークはローバー1をドリルを使って改造する。

より多くの太陽電池などを搭載するためだった。

しかし過電流を起こして、唯一の通信設備を搭載しているパスマインダー回路が壊れて再びNASAと通信が出来なくなってしまう。

しかしマークは腰を痛めながらもローバーを改造しテントを繋げたり、生命維持に必要な装置をトレーラー(ローバー1)に積んで出発する。

中国のエンジンで飛んで来たロケットとヘルメスは無事ドッキングする。

失敗したら5人のクルーのうち4人は食料消費軽減のために即自殺する準備も出来ていたが回避された。

一方NASAでは火星で広範囲の砂塵が発生していることを突き止める。

マークのローバーは太陽電池でエネルギー補充しながら目的地に進んでいるが砂塵の中では必要な電力を供給出来ず、期限までに目的地に達成出来ないと予測する。

しかしマークは砂塵嵐を避けつつ、かつクレーターの斜面でローバーが横転しても態勢を立て直してついにMVAに辿り着く。

NASAの指示どおりMVAの重量を減らすべくいろいろな設備、装置を外して、ヘルメスのスイングバイの軌道へ向かって発射。

無事ヘルメスにも辿り着く。

<メモ>

MDV:Mars Descent Vehicle

MAV:Mars Ascent Vehicle

ハブ:

ローバー:

EVA:Extra Vehicular Activity

サットコン: Satellite Control. 衛星コントロール「ヘルメス」。

空気調整機:

酸素供給機:

水再生機:

CO2フィルター:

O2タンク:

RTG:Radioisotope thermoelectric generator. 放射性同位体熱電気転換機。

火星には磁場がない。

またそにため太陽光線が強く当たるとガンになる。

火星への片道は10ヶ月。

火星への通信は4~20光分かかる。

火星の大気圧は0.006気圧。

火星の重力は0.4G。

RTGの安全な距離は4km。

この小説は当初ネット上に無償で一章ずつ公開されていたらしい。

そこに読者からは是非電子書籍でまとめて読みたいとなり、評判が広がって出版社が版權を買い取ったとのこと。